

平成三十年度

大妻中学校海外帰国生入学試験 国語

平成三十年一月七日実施

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項をよく読んでおいてください。

- 一、問題は21ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を挙げて申し出てください。
- 二、解答用紙は別紙になっています。答えはすべてそこに記入してください。
- 三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として含めます。
- 四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を変えているところがあります)

(海辺の町で育った星野洋平は、中学二年生になった四月に東京へ引越した。新たに友人となった柏原直人は、山あいの町で育った生徒である。海辺の町では、成長を祝う神事の一つとして神岩・通称飛びこみ岩から、海に飛びこむのがならわしだった。洋平は直人を誘い、ちょうど一年前に挑戦をあきらめた、岩からの飛びこみに再び挑むことにした。)

暑いはずなのに、流れる汗でからだは冷えてくるのは、足のふるえがとまらないのは、こわいからだ。

岩のうえから海面をのぞきこむ。去年、飛びこもうとしたときには、七、八メートルだときいたのに。絶対去年より高くなってるだろ、ここ。こんなところから、飛べるわけないだろうと、

1 膝をひっぱたく。

「おーい……」

と、飛びこみ岩から少し離れた海面から、洋平をよぶ直人の声がしている。やべえ、無理。ぜってえ、無理。数日前が、海辺の中学では終業式だったはずだ。しめ縄がとかれていて、何人かが飛びこんでいる。いつのまにか、どこできいたのか、町の知っているおばちゃんたちが、集まってくる。

「よーへーちゃん！ どうしたの、あんた」

人が集まってくるのは、完全に考えてなかった。

「おい！ ようへい！ きたなら知らせろよ！」

中学のときの友だちまでいる。なんとという、情報の速さと、地域のせまさだ。

「①くそっ！　なんだってんだ、いったい」

周辺で泳いでいた人たちも浜はまにあがって、まさに、洋平が飛ぶのをまっている状態になってしまった。

これじゃあ、去年と同じだ。これで、また飛べなかつたら……。直人につきあってもらって、ひとり飛ぶ予定だったのに。それなら今度こそいけると思っていたのに。

海岸に集まる人を見ながら、2にも似た気持ちになってきた。サンダルの下から、岩の熱さが3と、にじりあがってくる。

ふと、太陽が真上にあるのを感じて、空をあおぐ。あんなに見たかった、海辺の空だ。そして、潮のにおい。

えんぴつを削けずったりしてないで、直人もちゃんと、山に行けばいい。同じなつかしさを、どうしても、直人にも感じてもらいたくなかった。

洋平のからだに、海からの風が、ぶつかった。湿気しつげと塩をふくんだ熱い風が、ガツンとからんできて、そうだよ、こいつなんだよと、ふいにたまらなくなった。

(ここに、いるんだ)

下に広がるのは、泳ぎなれた、いつもの海なんだ。

白くあわだつ波間に、太陽が反射して、このうえなく、きれいだった。じつと目をこらすと、ときどき魚がはねる。毎年泳いできた、おれの海だ。

壁とか、超えようとか、そんな大げさなことじゃない。友だちと、先生と、あたりまえにあったはずの海と離れて、さびしかっただけなんだ。

都会の新しい場所には、海の音がきこえない。潮のおいもしない。さびしくて、どうしてももういちど、②この光景が見たくて、それで……③海に抱かれに帰ってきただけなんだ——。

足が、岩をけつていた。

つぎの瞬間には、すさまじい水圧とともに、ゴゴゴという飛びこんだときの衝撃音につつまれた。

海にもみくちやにされながら、泡で目のまえが真っ白になって、まわりが暗くて、パニックになりかけた。

うえは、うえはどっちだ。

泡がのぼつていく方向を見あげた。

水面がはるか頭上にあつて、そこにむかつて無数の泡がのぼつていく。

④濃紺の世界から、エメラルドグリーンへ、そして、光のかたまりにむかつて、のぼつていく泡を見つめて。

その色を見て、泣きそうになった。

波の様子がやさしくて、頭上でさまざまな形をつくつては、消えていく。

下を見ると、すいこまれてしまいそうだ。もつともつと下にもぐつていきたくなくなる。

こんな海は見たことがなかった。

⑤さつきまでかかえていたものが、全部、泡になって、海にとけていく。

自分はいま、たしかに海に抱きしめてもらっていた。これで、もう十分だった。

これから先、わすれない——。

海面に浮上すると、だいぶ長いこと、もぐっていたことを知った。

「よーへー！」

「おい、どこだ！」

と、さまざまによぶ声とともに、あちこちの海面に人のすがたが見える。たぶん、自分をさがしに海に入ってきてくれているのだ。

「おい！ ここ、ここ！」

水面からとびあがって、両手をふる、⑥浜から歓声があがった。

むこうから、泳いでくるのは、直人か。

「直人、無理すんな！ なにしろ、百メートルなんだからなー！」

と、大声で手をふる。

帰りの電車のなかで、海の色のことを話してやろう。

そして、今度は直人の山にいつしよに行きたい。そう言ったら、どんな顔をするだろうか。洋平にとって、山は、生まれてはじめてだ。

洋平は、直人にむかって、力強く泳ぎはじめた。

(しめのゆき『海風』による)

問1 1に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ わらう ロ にやける ハ ほんごら ニ ほほえむ

問2 ———線①「くそっ！ なんだってんだ、いったい」とあるが、この時の洋平の気持ちとして、当てはまらないものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 予想外に見物人が増えてしまったことへのあせり ロ かつての友人たちの、無邪気な声かけに対する怒り
ハ 地上から遠く離れた岩から飛ぶことへのいらだち ニ いなかの町特有の、情報伝達の速さに対する驚き

問3 2に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 興奮 ロ 感謝 ハ さびしさ ニ あきらめ

問4 3に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ めりめり ロ じりじり ハ ずるずる ニ ばたばた

問5 ——線②「この光景」とあるが、洋平が実際に見ているのは、どのような光景か。それを具体的に説明している部分を含む一文を文章中からぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問6 ——線③「海に抱かれ」とは、どのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 海に、自分のことをはげましてもらおうこと ロ 海に、自分のことをなぐさめてもらおうこと
ハ 海に、自分のことを受け入れてもらおうこと ニ 海に、自分のことを忘れさせてもらおうこと

問7 ——線④「濃紺の世界から、エメラルドグリーンへ」とは、何が、どこからどこへ向かっていく様子を示しているか。次の文の【イ】【ハ】に当てはまる言葉を、それぞれ指定された字数で書き入れ、説明を完成させなさい。なお、【イ】は文章中からぬき出し、【ロ】【ハ】は、自分で考えて答えなさい。

・【イ】(二字) 【が、海の】 【ロ】(二字) 【ところから、】 【ハ】(二字) 【ところへ向かっていく様子

問8 — 線⑤「さつきまでかかえていたもの」とは何か。次の文の「」に当てはまるように、文章中の言葉を用いて三十字以上三十五字以内で説明しなさい。

一。

「気持ち。」

問9 — 線⑥「浜から歓声があがった」のはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 洋平の向こうから直人が泳いできたから。 ロ 洋平の無事を確認することができたから。
- ハ 洋平が望み通り海に抱きしめてもらったから。 ニ 洋平が人には負けない飛びこみ方をしたから。

問10 この文章の特徴を説明したのとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 主人公の心情の変化が、短い文を連ねることで具体的に描かれている。
- ロ 主人公の心情の変化が、様々な比喩を用いることで明確に描かれている。
- ハ 主人公の心情の変化が、登場人物との会話を中心にたくみに描かれている。
- ニ 主人公の心情の変化が、所々に示される心の声と共に細やかに描かれている。

二

次のA・Bそれぞれの文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を変えているところがあります)

A

さて、①流れ星の正体をご存知でしょうか。じつは、宇宙空間に漂う小さなチリ粒です。そのチリ粒が地球の大気に衝突し、空気との摩擦で燃えて輝くのが流れ星です。あんなに明るく輝くのだからどれほどの大きさかと言えば、「A」数ミリ程度。砂粒くらいです。この数ミリのチリが秒速数十キロメートルというすさまじい速さで空气中を飛び、地上100キロメートルあたりで輝くのです。以前、宇宙飛行士の毛利衛さんと一緒にラジオ出演させていただいた時に、「国際宇宙ステーション(ISS)は上空400キロメートル付近を飛んでいます。すると流れ星は下に見える。」とうかがいました。なお、チリの大きさが数センチになると、通常の流れ星よりもずっと大きな「火球」として輝きます。

さて、流れ星のもとになる宇宙のチリはどこからやってくるのか。それは、尾をひいて夜空に輝く彗星です。いままでハレー彗星やヘール・ボップ彗星など数々の彗星が地球に接近しました。彗星はチリや氷のかたまりです。太陽に接近すると表面が溶けて、そこからチリやガスが噴き出します。この彗星のチリが流れ星のもとになります。

B

地球が公転する軌道上に、素敵な流れ星の置き土産をしてくれる天体、彗星。彗星は太陽系の端から太陽を巡る天体で、②すーっと伸びた尾がトレードマーク。彗星の尾は、「B」箒のようだということが、「ほうき星」とも呼ばれます。

私が初めて見た彗星はハレー彗星でした。ハレー彗星は、イギリスの天文学者であるエドモンド・ハレーが予想した彗星です。もと

もと彗星は、いきなり夜空に現れる a 得体の知れない天体でした。当時ハレーはいろいろな彗星がどのような軌道で動いているのかを計算していました。

イ ハレーの計算は見事に正解しました。

ロ するとその中に似たような軌道を通る彗星があるということに気がつきます。

ハ もしも同じ彗星であれば、自分が死んだ後の1757年に、きっとまた現れると論文を出したのです。

ニ そこでハレーは、ひよつとしたらこの3つの彗星は同じものかもしれない、と考えたのです。

ホ それが1531年、1607年、1682年の彗星でした。

そこで、ハレーの名前をとって、ハレー彗星と名づけられました。ハレー彗星は75・3年の周期で太陽をまわり、地球にその姿を現します。

有名なハレー彗星ですが、1910年に現れた時は大変な騒ぎになったそうです。当時は彗星の正体がまだ知られていませんでしたから、どちらかという謎の恐ろしい天体だったのです。1910年にやってきた時は、誰が言いだしたのか彗星の尾には有毒なシアン化合物が入っているので彗星がやってくると地球上の生き物は窒息するといううわさが流れました。

この時、ハレー彗星と地球は「C」接近する軌道でした。しかも後にこの時の彗星の尾の長さは3200万キロメートルにも達したというのです。尾の中に地球が入ってしまうくらい大きい彗星の尾には有毒物質がある。だから人類は全滅するといううわさがまことしやかに流れました。

またなぜか、地上の空気は5分間なくなるといいうわさもありません。その間、チューブや氷袋こおりぶくろを空気ポンベの代わりにしようと考えたのです。お金がない人は、訓練して5分間息を止める。当時の古い映像を見たことがあるのですが、子供たちがたらいに入った水に顔をつけて、ひたすら息を止める練習をしていたのです。「これさえ飲めば大丈夫!」という薬を売り出した怪しげな会社まであり、新聞に載ったというのですから驚おどろきです。そんなこんなで大変な騒ぎとなった1910年、もちろん地球上には何も起こりませんでした。

人々を①のどん底に突き落としたりほっとさせたりしたハレー彗星は1986年にまたやってきました。私が見たのはこの時です。書店にはハレー彗星関連本が並び、bボウエンキョウがたくさん売れ、プラネタリウムはハレー彗星の番組一色になりました。当時、私がアルバイトをしていたプラネタリウムでは「ようこそハレー彗星」から「さようならハレー彗星」まで2年以上毎月ハレー彗星をテーマにした番組を上映しました。そしてハレー彗星以降、百武彗星ひゃくたけ、ヘール・ボップ彗星が立て続けにやってきました。

この1986年のハレー彗星には、世界中から彗星探査機が打ち上げられました。彗星の核はよく③「汚れた雪だるま」にたとえられます。核は氷でできていますが、そこにいろいろなチリが混じっているのです。探査の結果、ハレー彗星の本体は約8キロメートル×8キロメートル×16キロメートルで、丸というよりはジャガイモのような形でした。

ヨーロッパの探査機シオットによる調査で、彗星の表面には炭素が多く、核から噴ふき出た物質は、氷や一酸化炭素、わずかなメタンとアンモニア。そうそう④1910年に人々を騒がせたシアンガスも、じつはちよっぴり入っていました。

彗星の核が太陽の熱で温められると尾が伸びますが、尾はよく見ると2本伸びています。まっすぐに伸びているのはチリが多く入っているダストの尾、そして青白くわずかに曲がって伸びているのはイオンの尾です。

尾は②時に最も長くなり、遠ざかると尾はなくなつて、氷のかたまりに戻ります。彗星の尾は進行方向の反対側に伸びると

思われがちですが、そうではありません。太陽風たいようふうによって常に太陽と反対側に伸びます。さらに、彗星の尾はいつでも伸びているような気がしますが、尾が伸びている時期のほうが短いのです。

ハレー彗星の軌道は、細長い楕円軌道だえんを描いていますが、彗星の中には何百年、何千年、それ以上という長い周期のものや一度太陽に接近し、そのまま太陽系の外側に飛んで行ってしまうものもあります。彗星の故郷こきょうは現在ふたつ考えられています。冥王星めいおうせいの彼方かなたにある「エッジワース・カイパーベルト」と太陽系をぐるりと球状に取り囲むとつもなく大きな「オールトの雲」。どちらも **3** が集まっている場所です。そこから **3** が飛び出して太陽に向かって長い旅をはじめめるのです。何度も太陽を巡った彗星は、やがて表面の **3** がとけてなくなり岩だけが残ると言われています。

さて、このハレー彗星のチリが由来の流れ星は、毎年5月のみずがめ座みづがめη（エータ）流星群と10月のオリオン座流星群です。ハレー彗星のカケラが落ちてくるなんて考えると素敵すてきですね。ちなみに次回のハレー彗星は2061年の夏ですよ。

（永田美絵『ながたみえ』「カリスマ解説員の楽しい星空入門」による）

問1 次の一文は、文章中のどこどこに戻るのが適当か。直後の文の最初の三字を答えなさい。

・そのためお金持ちは自転車のチューブや氷袋を買いあさりました。

問2 — 線①「流れ星」について、本文の内容と合わないものを一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 流れ星は最終的に地球の大气に衝突し、空気摩擦で燃えて小さなチリ粒になる。
- ロ 数センチの大きさに達したチリが空気摩擦で燃えて輝くと、「火球」と呼ばれる。
- ハ 国際宇宙ステーションは、流れ星が発生する高さよりも高いところを飛んでいる。
- ニ 流れ星のもとになるのは宇宙のチリであるが、それは彗星に由来するものである。

問3 【A】、【C】に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。
(同じ記号は二度使えない。)

- イ まだ
- ロ かなり
- ハ さらに
- ニ たとえ
- ホ まるで
- ヘ せいぜい

問4 — 線②「すーっと伸びた尾がトレードマーク」とは、具体的にどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 彗星に共通するものとして、長く伸びている尾がある。
- ロ 彗星に接近するものとして、長く伸びている尾がある。
- ハ 彗星を暗示させるものとして、長く伸びている尾がある。
- ニ 彗星を特徴づけるものとして、長く伸びている尾がある。

問5 で囲まれたイ〜ホの五つの文を、文章の意味が正しく通るように並べかえなさい。

問6 1 に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 失意 ロ 期待 ハ 恐怖きょうふ ニ 激怒げきど

問7 — 線③ 『汚れた雪たるま』とは、何がどのようになっていっている様子をたとえたものか。「く様子」につながるように、二十五字以内で説明しなさい。

問8 — 線④ 「1910年に人々を騒がせたシアンガス」とあるが、当時の人々はどのようなことを信じたのか。四十四字の表現を文章中からぬき出し、最初と最後の三字を答えなさい。

問9 2 に当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 地球に近づく ロ 太陽に近づく
ハ 進行方向の反対側に伸びる ニ 太陽風によって太陽と反対側に伸びる

問 10 3 に当てはまる言葉を、文章中から漢字一字でぬき出して答えなさい。

問 11 Ⅱ線 a「得体」の熟語の読み方をひらがなで答え、b「ボウエンキョウ」のカタカナを漢字に直しなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を変えているところがあります。*がついた説明は出題者が加えたものです。)

1

西もひがしもわからぬ猫の子なりけり

久保田万太郎

鮮やかな技巧が息づいている子猫パラダイスの句です。

秀逸なのは上の句の字あまりとひらがな表記の巧みさです。これによって子猫のまだ頼りない感じがうまく伝わってきます。「西も分からもぬ」と漢字を使ってしまおうと骨格がしつかりと定まってしまうのです。もう推敲(*詩文の字句を何度も練りなおすこと)のaヨチがないことを俳句が「動かない」と言いますが、①この句はもうこれで動きません。

「猫のよく眠ることよの 鯛雲」

この句は切れ字としての「1」の使い方が秀逸です。体操の見たこともないエレガントなひねり技のようです。

「仰山に猫るやはるわ春灯」

京都の祇園で詠まれたこの句もきわめて技巧的です。土地の言葉も活かした本句では、猫と舞妓さんが②巧みな「重写し」になっているのです。

2

猫の背にほこと骨ある良夜かな

斎藤朝比古

b試みに、猫の背中にさわってみてください。そこには、まさしく「ほこ」という感じで骨があります。

良夜とは月の明るい夜のこと。 2 もしくは十五夜を想定して用いられることも多い秋の季語です。夜空の恵みである月あか

りと、猫の背にある骨とが悦ばしく響き合っています。あまりしつこくさわると嫌がるかもしれませんが、猫が寝ているときにも「ほこ」を見つけてほっこりしましょう。

〈元日の猫のあばらにさはりけり (阿部青鞋)〉

太っている猫でなければ、あばらにもさわることができます。

あばらは肋骨。肋骨といえ、アダムの肋骨からイヴが生まれたという聖書の創生神話が想起されます。そう連想すれば、③猫のあばらにさわるのは年の初めの元日がいちばんふさわしそうです。

③ くらねこの子のぞろぞろと月夜かな

飯田龍太

黒猫に移ります。

まず思い浮かんだのがこの句。月あかりに照らされ、黒猫の子たちがぞろぞろと歩いているユーモラスで愛らしいさまがたちどころに目に浮かびます。

俳句は

3

がゆえにかえて多くことが表現でき、音楽にも絵にも昇華しうる(＊物事がさらに上のレベルに高められる)

というのが持論なのですが、④たたみかける〇音が心地いいこの句は忘れたいピアノの小曲のようです。また、「ぞろぞろ」と子猫たちの動きが響き合っているところは一幅の絵を見るかのようです。さすがは巨匠の名句です。

〈黒猫あり幹を走れば降る朝星 (金子兜太)〉

同じ巨匠の作でも、こちらは二つの字あまりを一気に力でまとめ上げた句。おかげで、幹を駆け上がった黒猫の力で星が降ってきたかのような躍動感が生まれています。こういう句はなかなか作ろうとしても作れません。

4 山畑や 4 花曇

村上鬼城

(中略)

⑤花曇とは、桜の花が咲くころのぼんやりとした曇天のこと。冷たい灰一色ではなく、⑥そこはかとないあたたかみも感じられる言葉と、山畑を縫うように帰ってきた猫の姿が響き合っています。

4 雷や 4 草の宿

同じ 4 句を、べつの季節でも鬼城は作っています。雷は夏、草深い田舎の名もなき宿で稲妻が光りはじめたころ、猫が帰ってきました。稲妻の黄色と草の緑、色彩の取り合わせが鮮やかです。

4 山月に 4 夜寒かな

山あいの寒々とした月あかりに照らされながら、猫が戻ってきます。「山月」と「夜寒」の季重なりが底冷えのする寒さを醸成（*あ）る雰囲気や状況を徐々に「つくりだすこと」していますが、猫だけがわずかなあたたかさを有しています。

〈春の猫磯の月夜を鳴きわたる〉

同じ月でも、こちらほうるんだ春の月です。広がりのある海景のなか、恋猫が大きく口を開けてないています。

4 橋の上に猫みて 4 淋し後の月

「後の月」は旧暦九月十三夜の月のこと。この橋はそれなりの高さで、ぼつんと一匹たたずんでいる猫の姿が、晩秋の月あかりに照らされて切り絵のようにしみじみと見える——そんな風景が浮かんできます。

4 稲の中を猫這ひ歩く 4 夕日かな

逆光の夕景のなか、猫が道を探しながら実りの田の中を歩いています。風に揺れる稲穂も猫の毛並みも夕日で赤く染まっています。

〈猫老いて 5 もとらず炬燵かな〉

功成り名遂げる（*りつぱな仕事を成し遂げ、あわせて世間的な名声を得る）と人間では言われますが、さしずめ猫ならこういう姿でしようか。

（倉阪鬼一郎『猫俳句パラダイス』による）

問1 —— 線①「この句はもうこれで動きません」とは、具体的にどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ かわいらしい子猫を詠むだけではなく、様々な技巧を用いて自分の能力の高さを読み手に印象づけたということ。
- ロ 子猫の様子を表すのに最も適切なひらがな表記を用いており、これよりほかにふさわしい表現はないということ。
- ハ 漢字表記によって子猫を詠んだ句に骨格を与え、誰にでもはつきりと内容がわかるように表現されているということ。
- ニ 上の句の字あまりで子猫の様子を具体的にイメージさせ、絵のようにはつきりとした子猫の印象を刻んだということ。

問2

1 に当てはまる一字の言葉を、「猫のよく〜」の句からぬき出して答えなさい。

問3 — 線②「巧みな二重写し」とはどういうことか。次の中から最も適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 二つのイメージの特徴が際立つ様子 ロ 二つのイメージの重みが増す様子
- ハ 二つのイメージが重なり合う様子 ニ 二つのイメージがぶつかり合う様子

問4 2 に当てはまる三字の言葉を、文章中からぬき出して答えなさい。

問5 — 線③「猫のあばらにさわるのは年の初めの元日がいちばんふさわしそうです」とあるが、それはなぜか。次の中から最も適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 「あばら」には新しいものが生まれるイメージがあり、それが新しい一年の始まる元日と結びつくから。
- ロ 「あばら」は聖書に登場するため神聖なイメージがあり、それが神仏に祈りをささげる元日と結びつくから。
- ハ アダム「あばら」と猫の「あばら」の共通点を探るためには、休日である元日という日がまさに適切だから。
- ニ アダムの「あばら」からイブが生まれたという日が、まさに元日である一月一日のことだったとされているから。

問6 3 に当てはまる言葉を、五字以内で考えて答えなさい。

問7 — 線④ 「たたみかける〇音」とあるが、「くろねこの」の句のどの部分を指しているか。九字でぬき出して答えなさい。

問8 4 に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ あかねさす猫 ロ めづらしき猫 ハ 猫かへり来る ニ 猫はしり行く

問9 — 線⑤ 「花曇」と同じ季節を表す季語が用いられている俳句を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 流れゆく大根の葉の早さかな 高浜虚子 たかはまきよし
ロ 梅一輪一輪ほどのあたたかさ 服部嵐雪 はつとりらんせつ
ハ 柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺 かき (え) かね 正岡子規 まさおかしき
ニ 朝顔に釣瓶とられてもらひ水 つるべ (い) 千代女 ちよじよ

問10 — 線⑥ 「そこはかとなない」が正しく使われている文を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ その商品にはそこはかとなない使い方があある。 ロ 帰り道はそこはかとなない遠さだった。
ハ 相手チームにはそこはかとなない作戦があつた。 ニ 彼はそこはかとなない不安を覚えた。

問 11

5

に当てはまる言葉を、あとの「功成り」を参考にして、具体的に考えて答えなさい。

問 12

|| 線 a「ヨチ」、b「試(み)」の漢字は読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。